

第5回デジタル化検討会 議事メモ

令和8年2月20日(金)

開会、接続確認 13:30~13:35

検証フェーズ2報告 13:35~13:50

画面案の説明 13:50~14:05

「重層的支援体制整備事業に係るデジタル化検討会5」により説明

意見交換 14:05~14:45

議題

1. 検証フェーズ2の結果の報告について

検討会での意見や県下2市で行った検証の結果について報告し、人材育成機能を検討するにあたり改めて重要なポイントや追加の意見をいただいた。

2. 人材育成機能の画面案について

相談記録プラットフォームへの実装を想定した画面案等を説明し、想定している画面案等について意見、感想をいただいた。

○議題1について

・ 発言者

自治体では、人材育成機能を使う頻度はそれほどないと思ったが、相談支援員と違って、福祉分野の経験をしていない人もいるため、必要な情報や求める情報が異なるので、習熟度によってAIの回答のレベルを選べた方がいいと思った。機能としては、気付ける点があり勉強になった。

・ 発言者

実際に人材育成機能を試してみて、当初はアセスメント観点が大量に表示され、何を聞けばいいかわからなかったが、改良後はシンプルになり、新人であれば参考になると思った。使い方を考えないと上司等とコミュニケーションを取らずに済ませてしまう恐れがあるので、使い方を整理することも大事と思った。

・ 発言者

31スライドにあるように、自分で入力しなくても、質問したいことを選択できるのは良いと思った。回答レベルの段階を選べるといいと思うが、費用もかかると思うので、落としどころを考えられるとよいと思った。

・ 発言者

「新人にとっては有益だが、ベテランには物足りない」と資料にあったが、今回の人材育成機能のターゲットを改めて確認できるとよいと思った。また、ターゲットを

選択できるとよいと思った。答えを出すのではなく、「気づき」を考えることは素晴らしい。AI だけで完結せずにコミュニケーションを取れる方向に持っていけるとよいと感じた

・ 発言者

蓄積されたデータを分析して改善していくとのことだが、各市が入力した個人情報を含むデータを、事業者が分析していくということか。特別個人情報の取り扱い上問題はなにか。

ネットワークは各市で分離されているという認識だが、類似事例は、別市の事例も参照できるのか。

人材育成機能については、非常に面白そうなので使ってみたい感じた。

・ 日立

個人情報については、マスキングのサポート機能を検討しているが、最終的な判断は、職員で確認していただく必要がある。

類似事例については、今回は参考として、構成市から提出していただいた模擬事例を、さらに匿名化して使用している。実際に使用する際には、匿名化せず自分の市の事例を見たいという意見もあった。

・ 発言者

見やすく使いやすい形になっており、実際に触ってみたいと思った。

・ 発言者

当初と比べてシンプルになり、使いやすいそうと感じた。

ケースを受け付けた時に使えそうと感じた。上手くいかないケースは、背景要因が重要になるので、その際は対面のサポートが必要になると思った。

・ 発言者

自分がスーパーバイズするときを思い出していた。後輩にどう気づきを促すかは、会話で深めていくので、それを AI がチャット形式でできるのはすごいと感じた。文字化するのが難しいので、AI が文字化してくれることでプロセスが残り、他の人も見れるようになって感じた。

・ 発言者

当初は情報量が多く、新人にとっては、何を聞けばいいかわからなかったと思うが、改良後はシンプルになってよかった。福祉の仕事が初めてか等によってレベルが違ってくるので、モードを変えられるといいと思った。

経験の浅い人がヒントをもらっても、思考のプロセスを理解できず、そのまま質問してしまうことがあるので、理由も含めて教えてもらえたらいいと思った。

・ 発言者

考える余地があることが必要と感じた。使用する人が、そのままアイデアを鵜呑みにするのではなく、取捨選択することが重要と感じた。

画面案は見やすくいいと思う。通常の生成 AI では表示されないような、全体的に網羅された表示だったので、聞き漏らしなく参考になると思った。

・ 発言者

人材育成機能は、データの蓄積が重要と思う。時代によって対応方法も変わると思うが、これで完成形ではなく、今後も蓄積し、このシステムが全国展開する上でもアップデートしていく認識で良いか。

・ 日立

今後については県とも相談になるが、全国展開していく上では方針を整理して展開していきたい。

・ 千葉県

データ蓄積できるのかという点について、今後実際に使うには、自治体ごとにデータを読み込んでいくことが想定される。都度 PF からデータが移行されるのではなく、期間を区切り、職員に抽出してもらい、データを読み込んでいくことでアップデートしていくことを想定している。

・ 発言者

更新できる機能を実装いただきたいと思う。

・ 発言者

新人教育に役立ちそうなシステムになってきたと感じた。所内の事例共有のための事前準備に使えるのではないかと感じた。経験が浅い職員だと報告だけになってしまうので、間を埋める役割を果たしてくれるのではないかと期待している。

・ 発言者

いい形になってると感じた。難易度の選択について、同感である。どの経験年数の職員にとっても使いやすくなる。スーパーバイザーに関するには、実際の逐語録が載っていたりする。そういったように、チャットの記録が残ることで、スーパーバイザー側も振り返るのに使うことができる。

質問だが、AI にチャットで答えてもらった後に、回答のフィードバックを返すことでAI も学習できるようなものなのか教えてほしい。

・ 日立

今回は日立側で、手動でフィードバックしたが、将来的には出来たらいいと考えている。

○議題2について

・ 発言者

昨年度に引き続き、重層的支援体制整備事業を実施している構成員と話を深めてくれたのがよかった。

・ 発言者

昨年度は一体どんなものができるのか想像がつかなかったが、人材育成は、一番現場で必要だが、日常業務では中々手が回らない部分なので、実現性や優先度から教育機能が残ったのでよかった。人材の流出が食い止められるといいと思った。

・ 発言者

1年間があつという間だったが、意見交換がこのように形となって見えていくのがすごいと感じた。人材育成は、これから必要な分野だと思うので、どのように使えるようになるのか楽しみに感じた。

・ 発言者

様々な意見が出る中で、実際に PF を形にするのを見て、重層的支援会議に通じるものがあると勉強になった。貴重な経験になった。

・ 発言者

最初は、会議資料に片仮名が多くて驚いたが、自分自身もデジタル化が進んだ。OJTで人材育成を担当することがあるが、自分の業務に追われ、中々時間が取れないと感じていたので、システムの出来上がりを楽しみにしている。

・ 発言者

自分は普段、相談支援の窓口に立たない業務だが、皆さんが何を大事にしているのかが可視化され、システム化されていくのが勉強になった。

・ 発言者

どういった機能があれば相談員の業務が効率化されるか、自分でも考える機会になり、よかった。いいものできたと思う。

・ 発言者

違う角度から人材育成について考える機会になった。重層的支援体制整備事業をやっている方と顔が繋がったのもよい機会だった。

・ 発言者

人材育成について、自分の業務を振り返る機会になった。これから入職してくる方は AI 等に慣れているので、その人のために頑張れることは何かと考えながら参加できた。

・ 発言者

視覚的にも内容的にもスッキリしたうえ、活用度が高まっており驚いた。新人教育としても使い勝手が良いと思うが、業務経験が長い職員は経験の分、気づかないうちにクセがついてしまうことがあるので、このシステムの活用はスキル見直しにもつながると思った。

・ 発言者

今年度は人材育成に特化した検討会になり、検討会を通じて人材育成というものを改めて考えさせられたのは良かった。これもデジタル化がもたらす副産物なのかと思い、各市の方々のシステムに対する意見が勉強になった。

その他の研修の機会でも会う機会が増え、顔が見える関係になれた。

AI による多角的な助言は、有用となると思うので、是非利用したいと思う。

・ 発言者

自分は自治体職員のため、相談員の方の意見をいただくことで勉強になった。

重層的支援体制整備事業が難しくなっていると自治体として実感している中で、自治体から相談員に発信できるものは限られているので、こういったシステムが運用されることで、職員も楽になるかと思う。価格面は気になる。

・ 発言者

顔を合わせる機会があり、ありがたかった。システムが形になったが、自治体は財政状況が厳しいので、国や県が主導となって、全国展開できるようにしていただきたい。

・ 発言者

支援システムは、不具合を伝えても声が届かず、直らないということが多いが、現場の声を丁寧に吸い上げていただけたことに感謝している。

・ 発言者

福祉は人と人の関係と思っていたが、デジタルを取り入れて実現しようとしていくことに驚いた。発言しやすい空気等勉強になり、経験できて良かった。

・ 発言者

デジタルネイティブの人でも、AI をどう使ったらいいかを言語化できていないと思い、そういったことを考えると、自分たちも、相談支援のプロセスを言語化できていなかったのが、気づきの機会になり良かった。

・ 発言者

日常でも AI の存在感が増してきており、真剣に考える必要がある。職場の規模が小さいと、相談できる状況がなかったりするので、こういったシステムがあると現場にとっては心強い。

プロセスの可視化は、相談支援の質を変えていくこともあると思っていて、どのように身に着けていくか、そこに関心がある。

様々な意見を述べたが、丁寧に意見を拾い上げていただき感謝する。AI に向き合っているエンジニアの皆さんの方が、AI に何を読み込ませるか慎重だったのが印象的だった。

閉会（検討会終了）